

授業科目名	忍ヶ丘教養 I	教員名	田上 幸雅 (実務経験のある教員) 劉 一杰	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	必修
					小学校教諭	必修
科目番号	SIN103	配当年次	1年後期		幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	選択
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標						
到達目標	(1)自主的、継続的な学習を進めていく上で必要な学習方法・学習スキルを修得する。 (2)正しい日本語を運用し、自分の意見の論点をまとめて論理的に相手に伝えることができる。 (3)特定のテーマについてグループ内でディスカッションし、グループ内で意見をまとめ、1つの見解を得ることができる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている、2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている、3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>授業の構成は、大きく4つに分かれる。①コミュニケーションの目的について学び、聴き方についての基礎的な技術を学ぶ。②正しい日本語を運用する力は、大学での学び、優れた教育者となる基盤になる。正しく日本語を運用し、自分の意見や論点を分かりやすく書く・話すことを学ぶ。③学術論文を読む意義を知り、学術論文の構成や読み方を学ぶ。合わせて、研究倫理の重要性についても理解する。④プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分たちで設定し、自分たちの主張を正しく相手に伝えるための資料作成、それを分かりやすく口頭で説明できるようになるために、プレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (劉 一杰/4回) <p>コミュニケーションの目的や課題について学び、コミュニケーションとは何かを理解する。また、社会人としての伝え方や会話のマナーについて学び、実際の場面において効果的なコミュニケーションの方法を具体的な事例から学ぶ。聴き方についての基礎的な技術を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (田上幸雅/3回) <p>正しい日本語による書く力と話す力の必要性を理解し、自己流に陥らない書く力の基礎(主題が明確である文章、間違いがない文章、言いたいことが端的に表現されている文章)について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (田上幸雅/4回) <p>大学において自主的、継続的な学習を進める上で必要となる学術文献の理解と活用に関する応用的な事項(英語で書かれた専門書や文献の読み方、情報・文献の集約、整理、考察の方法など)について学ぶ。</p> <p>各授業は、プレゼンテーション、グループディスカッション、ディベート等のアクティブラーニングを取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (劉 一杰/3回) <p>プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分たちで設定し、自分たちの主張を正しく相手に伝えるための資料作成、及びそれを相手にわかりやすく口頭で説明できるようになるためのプレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p>					
履修条件・注意事項	フレッシュマンセミナーを履修しておくこと。					
授業計画	<p>(担当：劉 一杰/4回)</p> <p>第1回：心理学的観点からコミュニケーションの目的・機能について考える。心理テストを使い自身の思考傾向やコミュニケーションの癖などを知り、グループ内でそれぞれのコミュニケーション形態の特徴について、意見を述べ合う(目標1)</p> <p>第2回：コミュニケーションの誤解やズレの要因を心理学的に学ぶ。(目標1)</p> <p>第3回：社会人としての伝え方と会話マナーについて考える。(目標1、2)</p>					

	<p>第4回：肯定的に相手の話を聴く方法を学び、ロールプレイ等を通して身につける。（目標1） （担当：田上幸雅／3回）</p> <p>第5回：分かりやすく簡潔な文章（主題が明確である文章、間違いがない文章、言いたいことが端的に表現されている文章）について理解する（目標2）</p> <p>第6回：分かりやすく簡潔な文章の例を調べ、書く力を向上する方法について学ぶ（目標2）</p> <p>第7回：課されたテーマについて文章を書き、推敲を重ね、書く力を実践的に高める（目標2） （担当：田上幸雅／4回）</p> <p>第8回：大学における学習や研究を進める上で必要になる学術文献とは何か、またその種類について理解する。また、学術論文の検索方法についても学習する（目標1）</p> <p>第9回：英語で書かれた文献を含む学術文献の構成や各箇所には何がどのように書かれているのかを事例を通して学ぶことで、その効果的な読み方を身につける（目標1）</p> <p>第10回：収集した学術文献をどのように集約及び整理したら良いのか、その方法を学ぶ（目標1）</p> <p>第11回：学術論文を収集し、研究の背景、目的、方法、結論を読み解き、整理することを学ぶ。あわせて、情報の収集・活用・発信に伴う研究倫理の重要性についても理解する。（目標1） （担当：劉一杰／3回）</p> <p>第12回：グループに分かれ、教育問題に関する与えられたテーマに沿って学術文献を選び、収集する（目標2、3）</p> <p>第13回：グループごとに収集した教育問題に関する学術文献の要約を基に発表資料を作成する（目標2、3）</p> <p>第14回：グループごとに教育問題に関する学術文献の要約を発表する（目標2、3） （担当：劉一杰／1回）</p> <p>第15回：インターネットを介したコミュニケーションやプレゼンテーションのツール（SNSやZOOMなど）が社会に深く寄与することを踏まえ、現在の情報社会（数理・データサイエンス・AI教育）、について講演を聞き、理解する（目標1）</p>
授業外学習時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めること。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求める。</p>
学生に対する評価	到達目標1～3の到達度を評価するために、授業への出席状況に加え、授業中の発言やディスカッションへの参加態度、課題への主体的な取り組み状況(30%)と、レポート・プレゼンテーション(70%)を総合的に評価する。
テキスト	テキスト：適宜資料を配付する
参考書・参考資料等	特になし
担当者からのメッセージ	教員や保育者を目指すためには、しっかりしたコミュニケーション力と専門的な知識・技術を身につけることが求められます。それらを身につけるべき基本的な方法を学び、2年次以降の学びの質を高めてほしいと思います。
オフィスアワー	劉一杰（メール等でアポイントを取ること） 田上幸雅（メール等でアポイントを取ること）
備考	